

# 新校舎完成イメージ



心豊かでたくましい児童生徒を育む小中一貫教育をめざして

シリーズ えでゆれば vol. ①

平成25年4月

開校

## 小中一貫校の建設が スタートします

三戸地区小中一貫教育学校建設基本設計・新校舎実施設計が完成し、平成23年度から、いよいよ建設工事がはじまります。

### 新校舎一体型の小中一貫校

心豊かでたくましい児童生徒をはぐくむ、小中一貫校の建設がいよいよ始まります。

これは、現在の三戸小学校の東側に隣接して上の「新校舎イメージ図」のような高等部（中学校2・3年生）用の新校舎と屋内体育館を建設するもので、現在の三戸小学校校舎も、全面改修され、新しい建物になります。

### これまでの状況

昨年7月から、小中一貫校の校舎・体育館の規模や、教室の配置などの基本的事項を定めるための建設基本設計を実施しました。

設計の検討にあたっては、町議会議員、学校長、保護者代表、各種団体代表で構成する建設推進委員会を3回、教職員、保護者代表、地域代表で校正するワークショップを4回開催し、ここでの活発な議論を基に、昨年11月、基本設計が完成しました。

その後、平成23年度に建設予定の新校舎の実施設計に着手し、2月に完了しています。

### 基本設計の概要

#### 基本方針

歴史ある教育の町三戸の伝統を受け継ぎ、「共に学び、共に育む」をキーワードとして、充実した教育環境空間実現のため、「共学共育ホール」をキーデザインとした計画としました。



ワークショップの様子

- ・安全で快適なユニバーサル空間の創出
- ・死角のない開放的でゆとりある空間をつくります。
- ・エレベーターや多目的トイレを設置した、ユニバーサル空間とします。
- ・コミュニケーションを促す空間の創出
- ・初等部（小1～4）、中等部（小5～中1）、高等部（中2～3）の間に異年齢交流ホールなどの共学共有ホールをつくり、学校生活の活性化を図ります。
- ・教職員、児童生徒、地域住民が参加できる空間の創出
- ・多目的ホール、異年齢交流ホールなどの共

## 小中一貫校施設の概要

（屋外運動施設を除く）

□構造	既存校舎棟（現三戸小校舎）：鉄筋コンクリート造2階 新校舎棟：鉄筋コンクリート造2階 屋内体育館棟：鉄骨・鉄筋コンクリート造2階
□床面積	既存校舎棟（現三戸小校舎）：8,673㎡（一部増築） 新校舎棟：3,397㎡ 屋内体育館棟：3,278㎡（体育館、武道場、屋内プール）
□普通教室	普通学級21、特別支援学級4
□特別教室	生活科室、図工室、技術室、調理実習室、被服室、美術室、音楽室2、礼法室、進路指導室、英語室、コンピュータ室、メディアセンター（図書室兼コンピュータ室）、図書ラウンジ、生徒会室、理科室3
□その他	職員室、校長室、会議室兼PTA室、保健室、多目的教室4、適応指導教室、教師プール2、少人数クラスルーム2、多目的ホール、異年齢交流ホール、多目的ルーム、学習センター

- ・学共育ホールは、会合や会議が行える設備として整備します。
- ・屋内体育館は、地域開放型施設として整備します。
- ・児童の安全を考慮した増築・既存校舎工事計画
- ・新校舎増築・既存校舎改修時の工事区画を明確にし、児童の安全を確保します。

## 三戸地区小中一貫教育学校建設スケジュール

年 度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
三戸小大規模改修工事		実施設計	大規模改造工事	施設一体型小中一貫教育開始	
新校舎建設工事	基本設計	実施設計	新校舎建設工事		
体育館・武道場・プール建設工事			実施設計	体育館・武道場・プール危険改築工事	
屋外運動施設整備工事		用地取得	実施設計	造成工事	屋外運動施設整備工事

三戸地区小中一貫教育学校完成

# 友田教育長に聞く

## 「小中一貫校のいま、これから」



三戸町教育長 友田博文

平成21年春から連携型小中一貫教育がスタートし、2年が過ぎようとしています。

小中一貫教育はなぜ必要なのか、スタートして町の教育がどう変わってきたのか、そしてどのような姿を目指しているのか、あらためて友田教育長にうかがいました。

Q これまでも小中一貫教育について広報してきましたが、復習の意味もこめて、なぜ小中一貫教育が必要なのでしょうか？

近年の調査で、小学校5年生と中学校1年生で児童生徒の学習意欲が低下することや、中学1年生でいじめや不登校が激増していることがわかりました。

その要因は、子どもの心身の発達が加速化している現在の状況と、現行の学校制度（6―3制）がうまくかみ合っていないのではないかと、また、小学生から中学生へと子どもの成長は連続しているのに対し、教える側である小学校と中学校がうまくつながっていないのではないかと、といったことが考えられます。

例えば、小学校では学級担任がすべての教科を教えますが、中学

校では教科ごとに先生が変わります。また中学校になると学習量が大幅に増え、学習内容も急激に難しくなります。さらに、この前まで小学生として子ども扱いされていたものが、中学生となって急に大人扱いされます。これら中学進学時の環境の急激な変化が、子どもたちに大きな心理的負担を与えます。これを「中1ギャップ」と呼びます。

中1ギャップによって、学習意欲や学力が低下し、さらにそれが不登校やいじめなどを引き起こす原因のひとつとなっているのです。義務教育の9年間を連続して行う小中一貫教育の導入により、中学校進学時の不安や心理的段差を緩やかにすることで中1ギャップが解消されること、また、中学卒業時に必要な学力と人間関係力が育成されることが期待されます。

Q 施設が一体となった新しい学校の名称はどうなるのでしょうか？

全国で行われている小中一貫教育には大きく分けて3つのタイプがあります。

1 同じ敷地・校舎内で小1から



現在 平成25年～  
杉沢小「施設一体型」→「施設一体型」



現在 平成25年～  
三戸小「施設分離型」→「施設一体型」  
斗川小「施設分離型」→「施設分離型」

## 平成25年度からの 小中一貫教育体制

中3まで一緒に過ごす「施設一体型」

2 隣接した校舎で、小中教員が相互に乗り入れや施設利用を行う「施設隣接型」

3 離れた小中学校で一貫した指導、行事などを行う「施設分離型」

三戸小・斗川小・三戸中は現在「施設分離型」の小中一貫教育を行っています。

平成25年度に三戸小と三戸中は「施設一体型」となり、斗川小は引き続き「施設分離型」として一貫教育を行います。

「施設一体型」といっても、小中あわせて1つの学校になるのではなく、小学校と中学校という区分は変わりません。既に「施設一体型」である杉沢小中も、区分は小学校と中学校として設置されているのです。

**Q** 三戸小学校と三戸中学校は1つの学校になるのでしょうか？

これまでと校種の区分は変わりませんが、それぞれの学校名は残りますが、小中一貫教育の先進地では、小中をあわせた学校の「呼

び名」をつけているところが多くあります。

呼び名については、必要性も含め地域の人びとからも意見をいただいで検討しなければなりません。また、校歌や学校内外の組織づくりも、多くの人びとの理解が得られるよう検討していきます。

**Q** 連携型の小中一貫教育がスタートして、どのような変化が見られるのでしょうか？

平成21年4月に連携型の小中一貫教育が始まったの一番大きな変化は、小学校と中学校の先生方の連携、交流の機会が、これまでに比べて格段に増えたということです。

例えば、今年度は立志科の授業発表会が各学校を会場にして4回開催されましたが、授業の展開の仕方について小中学校の先生方が熱心に討論し、理解を深めました。これは先生方の授業力アップに大変有意義なことであり、さらに子どもたちの学力にもフィードバックされていくものと思います。

さらにこの連携・協力が、中1ギャップの解消に最も重要な要素であることはいうまでもありません。

ん。

**Q** 小中一貫の具体的な取り組みについて教えてください

三戸町が進める小中一貫教育の特徴的な取り組みに「立志科」「英語科」「パワーアップ学習」などがあります。

ことしの4月から、新しい学習指導要領による新しい教育が小学校で始まります。特徴的なのは戦後初めてとなる、小学校5、6年生の英語教育(外国語活動)です。一方で、三戸町ではすでに、小学校で「英語科」を設け、小学校1年生から英語教育に先進的に取り組んでいます。

昨年末に三戸町の小学校英語教育の取り組みが新聞に大きく取り上げられましたが、国が小学校5年生から始めなさいという外国語教育を、町ではすでに取り入れ、しかも小学校1年生から始めているのですから、国内でも三戸町の小学校英語教育はトップレベルにあるといつて過言ではないと思います。